

遅羽地区座談会 議事要旨

○と き:平成 22 年 7 月 23 日(金)19:00～21:00

○と ころ:遅羽公民館

○テ ーマ:第5次勝山市総合計画

○出 席 者:58名

◎第 5 次勝山市総合計画について説明(未来創造課)

◎都市計画マスタープランについて説明(都市政策課)

Q1	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行方法を教えてほしい。三室は1台なのか？児童館に集まって乗るのか？ ・中学校が、1学年4クラス以上が望ましいというのは、何を根拠にしているのか？ ・中学校は、2つではだめなのか？南部中学校も生徒数の減少で困っているのか。
A1	<p>・スクールバスの乗降場所は、現時点ではバス停を基本に考えている。遅羽地区についてもバス停を基本として今のところ1台と考えているが、バス停から遠いところについては協議させていただきたい。</p> <p>・クラス数の根拠は、勝山市望ましい小中学校のあり方検討委員会の中で考え方が出ている。中学校においては、1学年4学級以上、3学年では12学級以上であればそれぞれの教科に専門の教員がそろう。また、部活動については運動部が6～9程度、文化部が2～3程度設置できるという考え方である。お示ししている素案については、この検討委員会の考え方をベースとしている。</p> <p>・中学校は2校という案については、もちろんそのような考え方もあると思うが、一方で、いずれは子どもの数が少なくなる状況の中で、2校にしておいて、あまり時間をおかずに1校ということになれば、非効率的であることから、現時点での素案としては1校にまとめていくのが良いであろうという考え方である。個別の中学校ごとではなくて、市全体の中学校のあり方を考えたとき、すなわち勝山市の子どもたちがより切磋琢磨し、あらゆる可能性を見出していくための新しい中学校をつくりたいという観点から1校案をお示ししている。</p>
Q2	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が勝山市のことが好きな理由に、自分の母校があり、そこに自分の子どもが勉強しているということもあるのではないかと。遅羽はここで生まれ育った人が多い。小学校が無くなってしまうと、勝山市が好きという人が減ってしまうのではないかと。 ・中学校のクラスの数は2クラスではだめなのか。もっと柔軟にならないのか。 ・都会に出た人が帰って来るような政策が必要なのではないかと。
A2	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は、地域に密着した形で学校運営がなされている。児童たちは地域の皆さんにご協力をいただきながら勉強し、元気に活動している。そのような意味で、勝山のことが好きな要素として、自分が生まれ育ったところに学び舎があるということが郷土を愛する理由にもなっていると思う。小学校については、必ずしも画一的ではなくいろいろな再編の仕方についてもさまざまなご意見をいただきながら進めるべきだと考えている。 ・中学校は、2クラス以下では絶対にだめだということではなく、あり方検討委員会で検討した結果に基づいているということである。生徒たちがお互いに刺激し合ってそれぞれの可能性を自ら伸ばすというような学校環境を求めようとすれば、4クラス以上必要と

	<p>というのが素案の考え方である。</p>
A2	<p>・雪の問題、働く場の確保などさまざまな課題にしっかりと対応することで、都会から帰って来てくれるようなまちづくりを進めたい。</p>
Q3	<p>・統廃合の問題について、地域が縮小していくことを前提条件にした考え方のように聞こえる。勝山市を住み良い地域にしていこうと言いながら矛盾しているのではないのか。人口を増やすことは考えていないのか。</p> <p>・スクールバスについて、遅羽は比島と下荒井では地理的に離れすぎている。もう少し地域の人たちが利用しやすいことを前提条件で考えてほしい。</p>
A3	<p>・勝山市はこれまで、将来人口を夢のある形で見積りながら計画を立ててきた。しかし、少子高齢化の中、人口減少が続いてきた。子どもを産む母親の数も減少してきた。さらには全国レベルで人口減少に転じているという状況もある。今後の転出入を考えなければ、現時点でも10数年先の児童生徒数についてかなり高い精度で見込める。一方で、もちろん勝山市に帰っていただく施策、帰ってきた後の政策は進めていく。現実的な状況をすべて勘案する中で、子どもたちのための教育環境、ここで住む人が暮らしていけるような目標設定をしたいと考えている。</p>
A3	<p>・遅羽町のスクールバスについては、平泉寺の路線などとの併用や、既存の路線バスの活用も考えて行きたい。</p>
Q4	<p>・スクールバスは、学校に置くのか。それとも一般の営業車という形で持つのか？</p> <p>学校にスクールバスがあると、運行などで職員が大変苦勞する。かつて、中部中学校にスクールバスがあったときはそうだった。</p> <p>・学校統廃合について小さい子にはアンケートなどは取っていないのか。朝早くからバスに乗って学校に通うということに対する子どもたちの心理的な苦勞を考えているのか。</p> <p>・現在の小学校単位で仕切ると距離的に遠い中学校に行かざるを得ない子も出てくる。遅羽は地理的に長いところなので、通う中学校については自由校区制にすることは考えられないか。</p>
A4	<p>・当時の中部中学校のスクールバスは、1台でたくさん地区を廻るために、最初の子が乗ってから降りるまでに1時間かかった。今回スクールバスを考える中で、乗車時間は長くても30分を目安にすることを考えている。バスの運営方法については今後検討していく。まずは、どうやって子どもたちを安全に学校に送れるかを最優先に考えていく。</p>
A4	<p>・学校の統廃合に関する子どもたちへのアンケートはとっていない。今後、勝山市の校長および勝山市全体の教職員との意見交換会を予定している。意見交換を通じて先生方から見た子どもたちの視点でどう思っているかを聞いていきたい。さらに市内の全保護者の皆さんを対象にした校区别座談会を通じてもしっかり意見交換していきたい</p> <p>・自由校区制については、中学校は1つにという素案なので、もしそうなれば当てはまらないが、小学校の場合について今後の検討材料に加えていきたい。</p>
Q5	<p>・まちなかの整備に対しては一度にたくさんのお金を投じているが、一方で農村や山林については継続的ではあるがどちらかと言えば投じられるお金が少ないように感じる。勝山の人をまちなかに全部集めるというわけではないと思うので、これまで、まちなかにお金をかけたのだから、これからは農村にお金をかけるという考え方もあるのでは</p>

	ないか。
A5	<p>・勝山市は8割を超える山林面積がある。また農業は勝山市の基幹産業である。水と緑をしっかりと守っていくということで農業政策については総合計画の中でしっかり唱っていきたい。今後、産業別座談会や農家組合長の会議などを通じてさまざまな提案をいただく中で施策として盛り込んでいきたい。</p> <p>農業政策、食料政策についてはしっかりと取り組んでいかなければならないと考えている。都会と地方の関係についても、地方に目を向けて、この国の豊かな自然、食料を守っているのは一体どこかということをしつかりと訴える中で、国からの補助や交付金などについても手厚くしていただけるような要望などにも努めていきたい。</p>
Q6	<p>・スクールバス利用範囲については、小学校2キロ、中学校3キロということだが、冬は、3キロに満たない子が雪の降る中を歩くということになるのももう少し検討してほしい。</p> <p>また、先ほどの提案とは逆に三室を自由校区にすれば、遅羽に人が来てくれる、児童が増えもっと賑やかにならないかと考えている。</p> <p>・中学校が大規模化することで部活動が活発になるということは有意義だと思う。しかし、生徒数が増えると、部の数もたくさんにしなければいけないし、そのために施設が足りなくなるということが起こるのではないか。</p> <p>・小学校と老健施設といっしょにすることで、高齢者と子どもたちとのふれあいということも考えてほしい。地域の中にそういう学校があっても良いと思う。</p>
A6	<p>・スクールバスについては、今後は運行体系やルートの詳細などについて地元と話をしながら設定していきたい。</p> <p>また、他から三室に来るといふ自由校区についても検討していきたい。</p> <p>・部活動については、中学生の数が平成元年度と現在とでは生徒数が約半分になっており、仮に3つの中学校が統合しても、生徒が溢れ返るマンモス校になることはない。必要なものはしっかりそろえていく。</p> <p>・小学校と高齢者施設との併用については、世代間交流で相互にいい面を出せることも考えられるので、勝山で可能かどうかなどさまざまな側面から検討していきたい。</p>
Q7	<p>・市民アンケートでは、勝山には働く場所が無いという意見が多い。そのような中、専門学校以上の学校に進学する生徒が8割いる。その子たちに勝山に帰ってきてほしいと思っても、市内で一番魅力ある職場の一つである学校の先生の職場が統廃合によって少なくなってしまう。これでは勝山に帰ってくる魅力がますます無くなってしまし、若者に戻って来いと言っても戻る場所が無い。</p> <p>・中学校は仕方がないが、小学校については通う距離が長すぎる。小学1、2年生に2キロ歩けと言われても無理。現在の小学校を利用した分校方式も考えるべき。</p>
A7	<p>・現在、教職員合わせて160名程度いる。これが中学校1校、小学校3校になった場合に教職員数はどうなるかといえば現時点では精査したものがあるわけではない。現在の教職員の数よりも減ることにはなると思う。市としては、子どもたちにとってより良い教育環境の整備を全体理念とし、充実した授業内容、子どもたちにしっかりと行き届いた指導など、充実した形にしていけるよう県にも働きかけたい。</p> <p>・分校方式については、新しく出てきた貴重なご提案。しっかりと検討していきたい。</p>
Q8	<p>・文科省による公立小中学校の学級編成基準の見直しによって30人学級になると言</p>

	<p>っていた。文科省からこのような考えが出てきたということは、教員の配置については今後大らかになってくるのではないかと思うがどうか。</p>
A8	<p>・あり方検討委員会の報告書では、福井県の基準を踏まえてすでに1クラス30人を基準にしている。今の国の基準におけるクラス人数はもっと数が多いが、福井県は独自に数を減らして充実した教育をしようということで、そういう基準を定めている。ご指摘のように、国もそういった流れのようなので、教職員の配置も緩やかになってくるかもしれないし、そのような形になれば、教職員数の減少についてもある程度はカバーしていけるのではないかと考える。</p>
Q9	<p>高齢化社会になるということで、スクールバスに高齢者も乗れるような施策も考えてほしい。</p>
A (全体)	<p>・小中学校再編については、次回PTAの校區別座談会やいろんな形で話す機会を持ちたい。自由校区という話が出たが、小学校については、いろんなバリエーションや段階などがあったりしながらより良い形にしていければと思っている。</p> <p>また、小中学校再編は決して行財政改革の観点で進めるのではない。あり方検討委員会の結果報告を受けて、子どもたちの教育環境の整備を視点として進めていく。</p> <p>市の高齢化率65歳以上は29%で、これが60歳以上になると35%。人口を増やしていきたいということだが、勝山市の子育て支援策は大変良好であり、保育料の引き下げ率も県下トップレベル。他の市が行っていない支援策もたくさんありPRもさせていただいている。しかしながら子どもの出生数は200人を切っている。平成7年度あたりから、出生数と死亡数が逆転して自然動態が減っている。こうした現実の中、少しでも転入を増やそうという努力は必要なので、産業支援などの面で市としてもできる限りテコ入れをしていく。このことについては、次の総合計画のなかにはしっかりと盛り込んでいきたい。</p> <p>スクールバスの高齢者利用については、運行体制を検討する中で考えたい。</p>

以上